# 第十二講　芸術論

変形によって芸術のすべてが説明できる、とは言えなくても、芸術的創造が先行するものの変形を重要な要素として含むことは疑いがない。このことから、いくつかのことが帰結する。

芸術の創造が先行するものから出発してそれを変形するのであれば、芸術のスタイルが変化するのは必然的である。この点で芸術は科学と異なっている。

科学の場合でも変化というものはあるし、その変化は、客観的真理への接近といったものではなく、クーン(注1)のいうパラダイム・チェンジといった性格をもつものかもしれない。しかし、科学の場合は変化する必然性はないように思われる。もし科学がその目標に到達して、すべてをきれいに説明できるような日がくれば、そこからさらに変化していかなければならないという理由はない。科学の場合、変化は、まだ目標に達していないことのしるしである。しかし芸術の場合、変化は未完成のしるしではないし、いつの日にか変化しないような状態に到達するわけでもない。

もしバッハが偉大で（たしかに偉大である）、完璧（かんぺき）な曲を作った（実際、完璧と思わずにはいられない。訂正の余地がないように思えるのだから）のだとすれば、人類はそれ以降の作曲家を必要とせず、バッハも完璧な曲を作った後は作曲をやめたとしてもよさそうなものである。しかし実際には、どの芸術家も作品を作れるかぎり作り続けるのであり、芸術家はつぎからつぎに登場するのである。これは芸術全般にみられる基本的事実である。A<u>どんなに「完璧な作品」を作っても、それで終わりということにはならない</u>のである。

芸術のたどる変化は、服装などの流行の変化に似ているところがある。服装の流行の変遷も、終焉（しゅうえん）をむかえることはないだろう。しかし服装の場合は、同じ個人が年月を経たあげくに以前の好みに帰るということがありうるが、芸術の場合は不可逆的であるように思われる。服装の流行は循環しうるが、芸術の場合は過去とまったく同じスタイルが復活することはないように思われるのである。

伝統や歴史の中で先行のものを基盤としてはじめて芸術が成立するのだとすれば、「すぐれた芸術作品は時代を越えて万人の



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

胸を打つものだ」という考えは誤解をはらんでいると言えるだろう。

アリストテレスは、詩人の方が歴史家よりもすぐれていると考えた。それは、歴史家が現実的事実にかかわるのに対し、詩人は可能性にかかわるからである。このことでアリストテレスが意味しているのは、歴史家は現実の個別的事物にあてはまることしか語らないが、詩人（叙事詩、悲劇、喜劇などの作者）は人間一般など、普遍的に成り立つことを語る、ということである。これは重要な指摘であるとわたしは思う。しかしそれを拡張して、すぐれた芸術は時代と場所を越えて万人の胸を打つ、とまで言うのは飛躍である。作品に感動するためには、伝統のなかに身をおいて、先行するものを十分理解していなくてはならない。先行のものから離れては制作も鑑賞もできないのである。

B「芸術は人間の純粋な感性に訴える」という考え方も誤解を招くものである。芸術が知性だけで十分だ、と言えないことは明らかであるが、かといって感性さえあればよい、というものでもない。制作にも鑑賞にも、何が先行するもので、どのように変形されているかということに対する理解の果たす役割は大きい。この理解は、感動することとは違うし、制作することとも違うが、感動にも制作にも不可欠のものである。理解ということでわたしが意味しているのは、制作の背景とか動機（芸術家の生い立ちとか社会情勢など）についての知識ではなく、基本的には、変形の理解をはじめ、専門家の条件の多くを含む複合的なもののことである。

たとえばジャズで、決められた和音進行に沿って即興演奏するのを聴いていて、いま曲のどの箇所を演奏しているか、何をどう変形しているか、その時の和音は何か、何拍子で何小節単位の曲かなどを指摘できなければならないだろう（さらに、使われている音の階名が言えれば申し分ない）。さらには、緊張して演奏している箇所とリラックスしている箇所、ソロ（注2）とリズム・セクションの間がうまくいっているときとそうでないときなどを識別したり、演奏のなかにミスがあればそれを指摘できなければならない。あるいは、ポリフォニー（注3）の音楽を聴いていて、何本ものメロディーが独立に聞こえなければ理解しているとは言えない。さらに、曲のどの部分が決まり文句で、何が奇抜な部分か、どんな効果をねらっているか、などを指摘できることが理解の基準とされることもある。普通、これらの理解に達するには、教育や訓練が必要である。専門家と素人の区別は主として理解力の違いである。

これらはもちろん、テストして合否を決めるような問題ではないし、直接、感動に結びつくわけではない。だが、これらの水



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

準に達していないと、作品を味わいつくすことはできない、と言いたくなるところがある。これで思いだすのは次のような実話である。

アメリカのある一家が子供の教育のためにグランド・キャニオン(注4)に自動車旅行をした。父親は道すがら、グランド・キャニオンができるまでにどれだけ長い年月がかかったか、この自然の驚異を一目見ようと人々がヨーロッパからはるばるやってくることなどを、こんこんと子供に語って聴かせた。ついにグランド・キャニオンに着いた一家は縁に立って、畏敬（いけい）と驚異の念をもってながめ、写真をとった。その夜、父親は教育の成果を確認するため、子供がつけている日記をこっそり見た。日記には一行書いてあるだけだった。「今日ぼくはつばを一マイル(注5)先まで飛ばした。」

同じものを見て同じように歓声をあげても、十分に味わっていないことがありうる。十分に味わっているかどうかを決める基準は、鑑賞しているときのふるまい（どこでどんな反応を示したかなど）のほかに、どの程度理解しているかということも含まれているのである。もちろん、ここでいう「理解」をもっていなくても芸術を楽しんでいる人が数多くいるという事実を否定するつもりは毛頭ない。ただ、そのような人の楽しみ方は、作者をはじめ<u>専門家の楽しみ方とは異なったものである</u>(C)とわたしは言いたい。

（土屋賢二『猫とロボットとモーツァルト』）

（注）
1　クーンのいうパラダイム・チェンジ——アメリカの科学哲学者トーマス・クーン（一九二二〜一九九六）が提示した概念で、科学者たちが共通して用いている思考パターン自体が転換すること。
2　リズム・セクション——ポピュラー音楽で、リズムの進行を受け持つ楽器の部門。
3　ポリフォニー——複数の独立したメロディーを組み合わせた作曲形式。
4　グランド・キャニオン——アメリカ合衆国西部の大峡谷。
5　一マイル——約一六〇〇メートル。



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　傍線部Ａ「どんなに『完璧な作品』を作っても、それで終わりということにはならない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

①　客観的にその発達を測ることができる科学に対して、芸術の分野ではそうした尺度がないため、芸術家は常にその尺度を作ろうとして、絶えず創作を試みるから。

②　いかにすぐれた芸術作品を作り上げようとも、その作品は多くの人々に評価され、流行するため、次第にその芸術作品に慣れてしまい、それとは違う新たな作品が求められるようになるから。

③　科学においては、変化は最終的な目標に達していないことを示すものだが、芸術においては、変化は新たな作品を生み出す絶え間ない運動であり、先行作品の変形が必然的なものだから。

④　科学は、より高度なものへ、優れたものへ、という形で変化していくが、芸術作品の創造は、そうした絶えず上昇していく変化ではなく、循環的な変化だから。

⑤　芸術作品は、先行して作られた作品の影響下にあり、先行する作品を十分理解し、それを模倣、変形して創作しようとするが、芸術においては完全な理解が不可能だから。

問２　傍線部Ｂ「『芸術は人間の純粋な感性に訴える』という考え方も誤解を招くものである」とあるが、その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

①　芸術を味わうことは、それ以前の作品との違いを味わうことでもあり、その意味で、様々な作品の形についての知識や、その変形を識別する能力が必要とされるため。

②　芸術は、人間の純粋な感性に訴えるというよりも、人間の醜さや弱点をも含めた、純粋とはいえないような暗い感性にも訴えることができるため。

③　芸術は人間にとっての普遍的な真実を追求するが、人間は時代によって変化しており、時代を超越した純粋な感性などは実際にありえないため。

④　芸術はそれまでの芸術作品を十分理解、変形することから生み出されており、先行する芸術作品をだれが、いつ、どの



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ように作り上げたかという専門的な知識が必要とされるため。

⑤　芸術に感動するときには、だれしも純粋に芸術作品をとらえているのではなく、そこには鑑賞者の個人的な体験や好みなどが反映しているため。

問３　傍線部Ｃ「専門家の楽しみ方」とあるが、本文で説明されている「専門家の楽しみ方」の例として適当でないものを、次のうちから一つ選べ。

①　菊の花を見る時に、その花びら一枚一枚の色合い、形、向きを見た上で、茎や葉のつきかたとのバランスや、全体と細部との関係まで含めた出来のよさを鑑賞する。

②　絵画を鑑賞するときに、それを描いた画家が影響を受けた画家や、同時代の表現方法の特色、あるいは制作の動機などについて十分な知識を備え、それを頭に思い描きつつ見る。

③　テニスの試合を見るときに、その選手の立場に立って、そこで瞬時に下されている判断や、戦略を考え、同時にその選手がプレーしているコートの状態、天候などの外側の条件をも考慮しつつ見る。

④　料理を味わうときに、その料理がどのような素材を用いており、その素材をどのように変形して加工しているか、を判断すると同時に、素材の風味を十分に生かしているかをも味わう。

⑤　ある作家の書いた小説を読むときに、その作品に描かれた登場人物の生き方に感動し、その生き方と読者自身の生き方とを対比しながら、人生の真実を深く読み味わう。



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 第十二講　知識モノ解説

## 文学史・人物解説

●アリストテレス（ＢＣ三八四〜三二二）　古代ギリシャの哲学者・万学の創始者。
物理学→フィジックス
形而上学＝けいじじょうがく→メタフィジックス・目に見える物を超えた本質追究の学問
1ソクラテス―2プラトン（アカデメイア）―3アリストテレス―4アレクサンドロス

## 語句

普遍＝ふへん→すべてにあてはまる・あまねく広く／不変→変わらない／不偏→かたよらない
偏在＝へんざい→かたよって存在・部分的にしかない／遍在＝へんざい→どこにでもある
科学史科学哲学
美学→エステティックス・芸術哲学
パラダイム→多くの人が共有している約束・前提



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 復習問題　第十二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

(ア) この原理からいくつかのことがキケツする　①着　②帰　③来　④基　⑤期

(イ) 大気が大きくジュンカンする　①順　②潤　③準　④巡　⑤循

(ウ) 歴史的なヘンセンをたどる　①線　②遷　③選　④戦　⑤潜

(エ) ソッキョウ演奏の腕前をみせる　①即　②速　③束　④促　⑤側

(オ) 議論がヒヤクしすぎだ　①訳　②役　③厄　④約　⑤躍

(カ) 政治的なジョウセイが変わる　①定　②情　③場　④常　⑤剰

(キ) 大胆で発想がキバツだ　①貴　②気　③奇　④鬼　⑤紀

(ク) 犯行のドウキが明らかになる　①気　②期　③機　④生　⑤揮

(ケ) 大自然のキョウイを堪能する　①畏　②威　③緯　④易　⑤異

(コ) 研究のセイカを発表する　①花　②果　③科　④架　⑤荷



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 第十二講　芸術論

## 《本文の対比構造》

**主役**

**筆者の見解＝**
**芸術**＝変化は必然的・先行する
ものを変形する・不可逆的な変化
／専門家の条件とは、先行する
ものの理解と変形の理解の力

**主な対比**

**比較相手**

**科学**＝変形の必然性はない
**服装**＝流行・循環的変化・個人の好み
**芸術の一般論**＝万人の胸を打つ・感性に
訴える

**小さな対比**

**脇役**

制作の背景や動機についての知識

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

**《解説》**

**問１**《傍線部説明・選択肢》

筆者側の見解を問う問題です。芸術は先行するものをふまえて変化するのは必然的で、完成というものはないということです。しかもその点で科学とは対比的です。したがって、③が正解。①は「客観的に〜測ることができる」という科学の説明自体が、すでに記述に反しています。またそうした測る「尺度」のあるなしを比べていますが、正しい対比喪失の誤りです。②は芸術の特性として「流行」を挙げていますが、もちろんこれは「服装」の特徴ですから、対比混乱の誤りの典型です。④も同様に芸術の特徴として「循環的な変化」としていますが、これも「服装」だよね。対比混乱の誤りです。⑤は「芸術作品⟷芸術」という対比になってしまってます。まるで「芸術作品という具体的なもの⟷芸術そのものという抽象的なもの」との対比みたいです。これぞ正しい対比喪失の誤りですね。

**問２**《傍線部説明・選択肢》

これも筆者の見解を問うもので、①が正解。芸術理解が、学習なしに（先行するものへの理解なしに）万人の胸を打つとか感性に訴えるというのは誤解なわけです。筆者のメインメッセージは一貫しており、シンプルです。②は「純粋な感性⟷暗い感性」を比べてしまった正しい対比喪失の誤りです。そもそも「感性」と答えてしまっている点では対比混乱の誤りとも言えます。③は前半の「普遍」がすでに誤りです。これは「万人の胸を打つ」のグループで対比混乱の誤りです。さらに後半の「人間は〜変化」は、記述に反する誤りです。変化するのは「芸術」ですよ。④は「だれが、いつ、どのように」が×。これは制作の背景や動機にあたる小さな対比混乱の誤りです。⑤は、「個人〜好み」が服装のキーワードに当たります。対比混乱の誤りの典型です。

**問３**《傍線部説明・選択肢》

間違い探しの問題です。こうした問題では、「記述なし」では決め手になりません。はっきり名指しで「〇〇の誤り」を優先します。例えば①の「バランス」、③の「選手の立場」「外側の条件」、④の「素材」、⑤の「登場人物」などの記述は本文に



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

はありません。しかし②の「制作の動機などについて十分な知識を備え」は、記述に対しはっきり矛盾します。対比混乱の誤りです。これが正解です。

**模範解答**
問１＝③　問２＝①　問３＝②



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 復習問題解答　第十二講

（ア）②　（イ）⑤　（ウ）②　（エ）①　（オ）⑤
（カ）②　（キ）③　（ク）③　（ケ）⑤　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）帰結　（イ）循環　（ウ）変遷　（エ）即興　（オ）飛躍
（カ）情勢（状勢）　（キ）奇抜　（ク）動機　（ケ）驚異　（コ）成果

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。